

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/第0049号  
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成20年6月2日

# 互惠関係は夏炉冬扇、毒ギョーザを忘れるな!!

カラスの鳴かない日はあつても、日本のマスコミが支那で起きた地震を取り上げない日はない。もちろん四川省の地震は大きなニュースだが、その報道の陰で一月に起きたあの忌まわしい毒ギョーザ事件は恰も忘れ去られたようです。すっかり話題にならなくなりました。あれほどの大騒ぎになり、まだ問題が解決していないというのに、この事件を過去の事件として、このまま葬り去っていいのか、日本国民の生命に関わる大問題であつて、決して有耶無耶にしてはならない事件である。



**毒ギョーザと支那人の本質**  
今回の毒ギョーザ問題で、絶対自分の誤りは認めず、常に「悪いのは他人のせい、いいことは自分のせい」とする支那の体質が改めて浮き彫りになった。

自分の国から出た毒入りギョーザを「日中両国の責任」と言い、風向きが悪くなると「良く調べて見る」と逃げて、

「調べてみたがそういうことは無かつた」と又ケ又ケと言つてのける始末で結局、何もしなかつたのが分かつただけである。更に「日本人は騒ぎすぎる」とまで言い放つ面の皮の厚さである。いくらお人好しの日本人でも今度という今度は、支那人の本質が分かつたはずである。そもそも支那が日本に匹敵する鑑識技術など持ち合わせていないことは周知の事実で、しかも検査方法も不明なまま「毒はなかつた。発見されなかつた」と言われても「はい分かりました」と言うわけにはいかない。こんな道理に合わないことを許していたら、支那の思う壺になるどころか、日本は世界の笑われ者になってしまうだろう。

**支那の歴史は毒殺の歴史**  
日本のマスコミがあまり報道しないから良く知られていないが、支那では毒入り食品事件は当たり前のよう起きていて、地方や香港の新聞には、毒入り食品どころか毒殺事件が日常茶飯事のように掲載されている。つまり支那の歴史は毒殺の歴史だと言つても過言ではないのである。毒を盛って涼しい顔で他人を殺め、傷つけても決して責任を取らうとしない。こういう体質は、文化革命以降特に酷くなつたと言える。無責任体質

がますます強まつたのだ。約東や社会のルールを守らないことにかけては世界広しといえども支那の右に出る国はない。無責任・独善・無反省体質は金輪際変わることはないだろう。

**殺人鬼・胡錦濤来日**  
五月六日、史上最悪の独裁殺戮国家のボスが、のこのこやつて来た。人権問題を巡り欧米諸国が支那の対応を非難し、包囲網を形作る中、日本だけは手懐けておこうという魂胆が見えてくる。

十九年前、民族浄化と称して百万人以上のチベット人を虐殺し、その功勞で支那共産党の指導者としての権力の座を手中に入れた男が胡錦濤である。今回のチベットの民衆蜂起でもチベット人を弾圧し殺戮したのは、日本のメディアがいうような武装警察ではなく人民解放軍で、その出動

を命じたのが胡錦濤である。自分がの上がるために人命を虫けらのように扱つてきた殺人鬼が日本の地を汚しにやつて来た。

**腐敗分子となつたマスコミ**  
殺人鬼が来日した日は朝から日本のマスコミは支那の手先となつたかのようにしやがまかつた。まるで支那のCTVと見紛うような報道であつた。東シナ海のカス田も毒ギョーザ事件もなかつたかのように蓋をして、殺人鬼・胡錦濤の来日を心から祝つているかのようである。

東シナ海では海底資源の盗掘を続け、毒入り食品や鉛入り玩具や毒医薬品を日本だけでなく全世界に輸出し、世界中の人々を恐怖に陥れている現状を、何故マスコミは訴えようとしないのか。正義のペンを持ち合わせているのなら胡錦濤の悪行と血塗られた履

WANTED! おい、胡錦濤!  
容疑チベット人虐殺の首謀者  
殺人ギョーザ事件犯人隠匿

歴を白日の下に晒すべきである。それができないというのなら日本のマスコミは精神が墮落した腐敗分子に成り下がったと謂わざるを得ない。

### ナンセンスな首脳会議

胡錦濤が来日した翌日の五月七日、日支首脳会議が行われた。会議内容については既報のとおり、東シナ海のガス田や毒ギョーザ問題は一ミリの進展もなく無意味で無駄なものであり、やつてもやらなくとも良かったと言える。

会談で福田ボン助が何を言っただか報道されているが、肝心なことは闇に閉ざされたままとなつている。此処で取り上げたいことは、ボン助が何を言っただかということではない、何を言わなかつたかということである。もっと突き詰めて言えば、何故あの大事なことを言わなかつたのかという点である。それは支那が我が国の主要都市に照準を合わせて配備している核弾頭ミサイルのことである。

かつて米ソは中距離核弾頭ミサイルを条約によって破棄したが、支那はその対象外となつていたので着々と中距離核弾頭ミサイルの数を増やし続けてきた。そして現在、北朝鮮との国境近くの通化（トンホア）に我が国に照準を合わせた核弾頭ミサイルを多数配備している。ミサイル一発



殺人鬼とボン助

の威力は広島に落された原爆の三十倍ともいわれ、射程は一七〇〇キロから二八〇〇キロで、日本の至る所を瞬時に消滅することができる。

### 日本を照準にした核ミサイル

日本から莫大なODAを搾取し、その金でせっせと核ミサイルを入手して拳句は大恩ある我が日本に向けてミサイルを実戦配備している。仮初にもボン助が日本の首相であるならば、何よりも先に「我が国に突きつけている核弾頭ミサイルを外せ」と言っべきであつた。しかし、ボン助と殺人鬼の会談で真っ先に取り上げられたのはパンダのレンタルであった。ボン助はこれを「中国からのプレゼント」と言つたが、馬鹿なことを言うな、一億円のレンタル料を払わなければならぬプレゼントなど何処の世界にあるというのだ。

相手を抹殺する武器を突き

つけておいて何が「友好」だ何が「互恵」だ、よくも又ケ又ケと「オリンピックに来て欲しい」と言えるものだ。

### ママと遊ぶパンパン

支那の傲慢で無礼な対応は今に始まつた事ではないが、それには日本側の弱腰な態度に問題があると言えるのではない。仮に会談の冒頭でボン助が「日本を照準としていた核ミサイルを撤去せよ、直ちにチベットや東トルキスタンを解放しろ、今までの悪行を全世界の人々に謝罪しろ」と言つたならば、日本は世界中から尊敬される国家となつたであろう。だがしかし、結果は周知のとおり、卓球とパンダだけがクローズアップされた会談で、三十年ほど前の幼児向け番組「ママと遊ぶパンパン」のようなものであつた。こんな会談なら恥の上塗りになるだけでやらない方がましであつた。

「水の微笑」で知られる米国の女優・シャロン・ストーンは四川省で起きた地震に触れ、「チベット騒乱への中国の対応が悪かつたことの報いではないか」と誰もが思つていないが言えなかつた正論を述べた。我が意を得たりである。強大な軍事力を駆使して、貧しくて平和で幸せに暮らす人々を何百万人も殺害し、



西郷南洲翁

筆者の尊敬する人物の一人である西郷南洲翁の遺訓の一節に次のような一文がある。

「彼の強大に畏怖し、円滑を主として、曲げて彼の意に従順するときは、軽蔑を招き、終いに彼の制を受けるに至らん」文中の主語を日本の政治家「彼」を支那に置き換えてみると、現在の日本と日本の政治家は南洲翁の警告通りになつていことが良く分かる。独立国の首相でありながら、属国根性をもつて支那に接することは日本国を裏切る行為であり売国政治家のレッテルを貼らざるを得ない。福田ボン助のみならず、支那に伺候した多くの国会議員も、財界人も、マスコミ人も同罪である。彼等は皆一様に支那が突きつけている核弾頭ミサイルから顔を背け、笑顔で友好の握手を繰り返している売国の輩である。繰り返し言うが、「核弾頭ミサイルの照準を外せ」この一点を言わない限り日本の明日は無い。

北京五輪ボイコット  
取り戻せ日本の威信

今この瞬間も、聖都ラサでは人民解放軍による想像を絶する弾圧が行われ、人々は恐怖と絶望の中にいることを決して忘れてはならない。日本が支那のような悪辣国家と戦略的互恵関係を構築すれば、チベットや東トルキスタン弾圧も世界中への毒ばら撒き事件も同罪だということを覚悟しなければならぬ。日本が北京五輪をボイコットした暁には国家の威信を取り戻すことができると断言する。

世界中に毒を撒き散らしている支那のオリンピックに参加することは、侵略と虐殺の協力者だと言える。ダルフルの虐殺に加担している支那に抗議して、北京オリンピックの記録映画の監督を辞退したスピルバーグは、後世大きく評価されることだろう。



スピルバーグ

シャロン・ストーン

編集人・戸出蒼流